

# 国語 第1学年 かきと かぎ

## 検討会の想定問答

**指摘 1：**この教材で身に付ける力は何か。

**返し：**清音と濁音で意味が変わることを、平仮名の表記で確かめる。B(1)ウに関わる学習として、濁音の音と表記、語の意味を確かめた自作文で言葉の扱いを確かめる。

**指摘 2：**学習できたと判断する根拠は何か。

**返し：**評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、濁音の音と表記、語の意味を確かめた自作文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

**指摘 3：**活動だけで終わらせないために何を残すか。

**返し：**濁音の音と表記、語の意味を確かめた自作文を残す。完成後の見た目だけでなく、どの言葉を選んだか、その理由を本人の説明と照合する。

**指摘 4：**つまずきにはどう対応するか。

**返し：**濁音を表す文字を落とす、音と表記を対応させずに写す。その場合は、意味が確認できる既習語を選び、音を聞き分けにくい児童には口形と文字を併せて示す。助詞の練習に置き換えず濁点に焦点を当てる。

**指摘 5：**本時の問いはどのように働くか。

**返し：**「濁点が付くと、どの音と意味が変わりますか」に一度答えてから活動に入り、確かめた後に答えを比べる。教師の予定した文と一致するかではなく、言葉と理由の対応で判断する。

**指摘 6：**友達と違う考えはどう扱うか。

**返し：**読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。友達と同じ表現に直すことを目的にせず、伝わったことと確かめる必要があることを区別する。

**指摘 7：**態度の評価は参加の様子で決めるのか。

**返し：**参加回数や声の大きさだけで決めない。学習の見通しをもち、困った箇所を確かめて方法を試した記録から、粘り強さと自分の学習の調整を捉える。

**指摘 8：**端末や特別な道具がなくても進められるか。

**返し：**濁音の音と表記、語の意味を確かめた自作文は紙・板書・口述の記録で扱える。端末がある場合は見直し前後を保存して比べる。道具の操作の上手さを国語の評価と混同しない。

**指摘 9：**配当時間を変更する時は何を確かめるか。

**返し：**全2時間は光村図書の公式年間指導計画に基づく。本案の各時の配分は授業案であり、学校の年間計画に合わせて組み替える際も、目標と評価を確認する活動を残す。

**指摘 10：**教科書本文を配布物に載せていない理由は何か。

**返し：**児童と教師は使用中の教科書を手元で参照する。本案には独自の問い、活動の手順、記録の観点を示し、本文や台詞、挿絵、教科書の問題文を複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

